

今後の課題

資料9

対象		検討課題	論点
路線バス	短期対応 (今後1～2年後程度)に向けて	・ラッシュ対応座席配列の実用化	・後部前列座席の1人掛け変更 ・通路と座席床間の段差解消 ・中間ステップ高さの緩和
		・座席色のバリエーション追加	・可能なバリエーション数 ・具体的な色彩(握り棒は変えない)
	中期対応 (今後3～5年後程度)に向けて	・座席数増加配列の実用化	・2人掛け折りたたみ椅子 ・低床部両側2人掛け
		・本年度作成した改良イメージの実現性	・ホイールベース拡張の可能性 (リアーオーバーハング短縮) ・ホイールベース拡張に伴う走破性 ・タイヤ小径化による弊害 ・車体軽量化の可能性 ・アウトスライドドアによる弊害 ・前扉開口幅の減少 ・反転式スロープ板の実用性 ・巻き取りベルト車いす固定装置の実効性 ・乗降口付近のフラット化と弊害
		・試験車両の試作	・どのレベルをねらうか (モックアップor走行車) ・スケジュール (各種イベント等への出展)
	長期対応 (5～10年後に実現)に向けて	・フルフラットの実現可能性	・フルフラットのイメージの共有化 (欧州型orポンチョの大型版) ・コスト負担の可能性 ・国産の必要性、可能性 ・国際調和、規制 ・BRT、接続バスへの応用
マイクロバス	・現状と需要	・市場に出ている車両の仕様 ・使用方法と今後の需要	
	・ノンステップ化の可能性	・FFシャーシの調達の可能性 ・FRシャーシでの部分低床化	
リムジン、高速バス	・コストダウンの可能性	・標準化、量産化の効果 ・英国の事例	
	・リフト以外の方法	・座席移乗の可能性	

注:路線バスに関し、対応前倒しが可能な課題項目については順次対応していくものとする。